

なりまされた。

これを聞きつけたその辺りの人は、さまざまな病やまいと痛みに苦しんでくるいる者、憑つき物に取り憑もつかれてのたうちまわっている者、癲癩てんかんになつてゐる者、中ちゅう氣にかかつてゐる者など、病持やまいちのあらゆる者らを、イエシューさまのもとへと連れて来た。それで、イエシューさまはこの者たちをみな、手厚く世話してやりなされた。

²⁵ かくて、ガリラヤ、デカポリス、ヒエロソリユマ、ユダヤ、ヨルダンの川向いから、雲霞うんかのごとき人々がやつて来て、イエシューさまにつき従つたものでござつた。

● 第五章

一三・幸せな人

参照 ルカ 6 20-26

1 この大勢の人を見て、イエシューさまはどある丘に登りなされた。腰を下ろしたお側そばに、弟子たちも寄つて来た。² そこでイエシューさまは口を開き、このような話をして、教えなされた。

「³ 頼りなく、望みなく、心細い人は幸せだ。

神さまの懷かこにシツカリと抱かれるのはその人たちだ。

① ⁴ 野辺のべの送りに泣く人は幸せだ。

その人たちはやさしく慰めていただける。

② ⁵ 意気地なしの甲斐性かいしやうなしは幸せた。

その人たちは神さまからすばらしい跡式あとしき（遺産）をいただく。

腹いっぱい食わせていただくことになる。

その人たちはあたたかい情けをかけていただけ。

その人たちはかたじけなくも神さまにお目通りが

9 お取り仕切りの安らぎに誘う人は幸せだ。

その人たちは神さまから『我がいとし子』と呼ん

「ほだされてつい施しをするものだから貧乏人

から」いつもねだられて追いかけまわされている人は幸せだ。

神さまの懐ふところにシツカリと抱かれるのはその人たちだ。

「俺のために悪口を言われ、責め苛まれ、身に
 のし
 覚えのないことであらゆる罵りを浴びせられる時、

一四・土の塩、世の光

参照
マルコ 4:21、
9:49、
50、
ルカ 8:16、
11:33、
14:

34
35

「13 お前さんたちは

畑に混じれば塩害のもとだが、荒地地の野山羊が舐めに来る、善くも悪しくも

土の中の塩くれだ。それはそうでも、もしも塩に塩気がなくなったらば、何をもつてその塩に塩味をつけてやろうかね？ 最早、何の役にも立ちはない。ただ、外に棄てられて、人に踏まれるだけだ。」

至 福

(マタイ福音書五章一一二節)

私たちはきょう、イエスがとある山に登られ、彼の許に集まった弟子たちに言われたことを読んだ。

心の貧しい人は幸いである。天国は彼らのものだからである。

私は聖書では貧しい人々という言葉は、しばしば *anawim* と表記され、それはヘブライ語で「ヤハウェの貧しき者たち」というほどのことを意味すると説明した。彼らはヤハウェが解放し、神が救世主によって解放しようとする人々だからである。それは、私たちが今日、「圧迫されている人々」と言っている言葉と、ほぼ同じ人々である。聖書で、この貧しい人々は、同時に善良で行い正しく、有用で敬虔な人々と見なされており、この「圧迫されている人々」の反対は、金持たち、傲慢な人々、無神論者たちであった。きつとイエスも *anawim* というこの言葉を用いられたんだらうね。歴史的にはこれと同価値の表現はなく、マタイ福音書は、これをギリシア語に翻訳したものなのだろう。しかし、それがこの箇所では「心の貧しき者」という表現になっているんだね。ルカは彼の至福のところでは、

非常に単純にただ「貧しい人々」と書いている。このマタイの造語は、多くの人々が、精神的な貧困が問題になっている……と信じるという、大きな混乱をひき起こしたんだ。

私は、この「心の貧しい者」という言葉が敬虔な金持である、と確信している僧職者を識っていると話した。

オリヴィア この心の貧しい人、あるいは神の貧しい人々というのが、もし、彼らを圧迫している人のそれではなく、「圧迫されている人々」の精神を持っている、つまり、その精神において圧迫者でないならば、単に貧しい人々ということなのよね。

トマス・ペーニア そうだ。なぜなら、儂ら貧乏人だって、金持と同じように思い上がってるってことがあるもんだ……

アンジェル 貧乏人だって搾取者であることがある。

私は、もうすでに幾度も天の御国について語っていることを、もう一度、繰り返した。——マタイが神の御国を「天の御国」と呼んだのは、ユダヤ人たちが、神の御名を怖れて言わなかったためであり、神の御国が「天国に」あることを意味しているわけではないということを。他の福音書では「神の御国」と言われているが、イエスはこの国をマタイと同様に「天の御国」と言っており、イエスは善良なユダヤ人として、神という言葉を使わないという習慣を保っていた。この表現には、キリスト教徒たちが、何世紀にもわたって、これはただ彼岸の国を問題にしているんだと信じて来た責任が帰せられる。

マリータが言った。——それはこの地上の国のことを言っているんでしょう。だけど死後の天国にある国のことでもあるわね。

他の男。——幸福ってものを知らずに死んで行く、大勢の貧乏人たちがいるんだ。一体、なぜ、彼らが幸せを賞めたたえたりしなけりゃなんねえんだ……

さらにもうひとりの男。——すべての世の中から見捨てられて死んで行った、ドン・チュ老人のようにな。あの人が見つけられた時にゃあ、もう蟻たちがその体を半分も喰いつくしてたんだから。

どんな時にも革命について語るために、人々に耳を傾けているラウレアノ。——だが、僕たちはこの国も、地上のものだってことを忘れちゃあいけないんだ。なぜなら、ただ天国でのよりよい生活に希望をかけて、闘おうとしない貧乏人たちが居るからね。

彼の従弟のオスカール。——だけど、彼らが自分たちの兄弟や子供たちのために闘おうとしなければ、死んだ後だって、このもうひとつの国に入ることとはできないだろう。

オスカールの母親。——私は、神の御国っていうのは愛のことだと思っているわ。愛、ここのこの生活のなかにおける愛よ。天国は神さまが愛であられるんだから、ここを愛する人たちのためのものなんです。

フェリペ イエスが貧しい人々を祝福した、というのは、貧乏人たちの方が愛を実践することができからじゃないか、と僕は思う。この愛が、神がわれわれに与えようとした国なんだ。だから彼は貧しい人々を、幸いな者と呼んだ。なぜなら、愛の新しい社会を築くのは、貧しい人々だろうからね。

——それじゃ、この国はこの愛をまったく実践しないことになるじゃないか——とフェリオが言った。

私はフェリオに尋ねた。——どうして、そういうことになるんだろう。

彼が答えた。——だって、人々は利己的でしょう。貧乏人の方がずっと容易に愛することができんだ。なぜなら、被圧迫者としての彼らは搾取なんかしないし、それだけ利己的ではないということになる。

私は言った。——事実、裕福な人たちは、つねにいろいろな方法を用いて、貧しい人たちの犠牲のうえにその富を得ている。自分たちのために他の人々を働かせることによってね。そしてこのような労働から得た金によって、彼らのためのそれ以上の労働という犠牲から、それ以上の金を儲けている。事態がそうである限り、まさにフェリエが言ったように、彼らは隣人たちを愛することはできないだろう。そうでなければ、彼らは自分たちの富を分配して、その搾取を止めるだろうから。

オスカー エルネスト、僕も、貧乏人たちの方が神の御言葉に対する恐怖からではなく、遙かに真剣に愛を実践することができると信じている。それに反して、金持はそうじゃない。彼は本当に我と吾が身を損なっているからね。金持は何が正しいのかを知っていたとしても、それを実行しない。

実行するとすれば、もうこれ以上搾取し続けることができなくなるからね。だから、僕は金持は誠実であることができないんだと思うんだけど、貧乏人たちはできるだろう。神は貧しい人間にこの誠実さを認めて、彼らに神の御国を約束したんだ。

マルセリーノ 俺の見るところでは、大金を持ち、ビジネスをやっている連中は、いつだって、さ
て何が必要か必要でないかと、ビジネスのことばかり考えているんだ。貧乏人はね、「俺はオムレツを
一枚持っているが、他の人間は持っていない。よし、俺は彼奴に俺のから一片（おれ）やろうじゃないか」っ
て言いますがね。金を持っている男の精神と持っていない他の人間の間には、まったくの断絶がある
んですよ。俺は一度こういった男と談笑して、彼に尋ねたことがあるんだ。「もし、あなたが千ペソ
で売りに出しているボートを持っていたとして、ここにとてもそれが必要としている男が居るんだが、
充分な金を持っていない。そしたら、あなたはこのボートを彼に五百ペソで譲りますか？」そしたら、
その男はほんとうにびっくりして俺に答えたよ。「いや、どうして？ ビジネスはビジネスだ」って。
こういうのが金持の男って言うんです。

——だからこそ彼は、金持の男なんじゃないか——とひとりの男が答えた。

アレフアンドロ 今、ここで二つの異なったことが問題になっていることが、僕たちには解るね。
ひとつは愛と平等の国である、神の御国だ。そこではすべての人々が兄弟みたいなんだな。もうひと
つは、何もいまだに始まったというわけじゃあない、もう何世紀も前から、ビジネスはビジネスだと
いった、貧しい者と富んでいる者がいるあるがままの社会だ。こんなふうにそれぞれ異なった二つの
事柄（ことがら）があり、だからこそ、神の御国が来るようにこの社会は変革されなければならないんだ。僕は、
この御国が貧しい人々によってのみ築かれることは、当然だと思っている。

パンチョ お互いに愛し合っている、すべての人々によって築かれるんじゃないのか。なぜなら、

同胞を愛している金持だったら、この国にも参加できるんじゃないのか。

マリータ だけど、他人と愛を分かち合うお金持だったら、自分のお金だって他の人と分かち合うはずよ。そうすることによってだけ、彼は自分の同胞を愛していることを示すことができるんだわ。たとえ彼が、私はすべての人を愛していると言ったとしても、自分のお金を全部自分のためにだけ持ってたとしたら、——私たちはどうして彼を信じればいいの？

レベーカー だけど、私たちが貧しいからって、即座に神の御国が得られるってことじゃないでしょ。つまり、私たちが貧しくても、愛をもっていないとすればってことよ。それに反して、愛を持っていればお金持たちは、それ故にこそ、神の御国にも参加することになるんだわ。

アンジェル だから僕たちは、この点でも注意して、聖書を正しく理解しなければならないんだ。僕たちはただ、単純に、俺たちは貧しい、だから俺たちはやりたいことをやっていいんだ、いずれにしても神の国は俺たちのものなんだから……などと言うことはできないし、一方、金持が、もとより金持だというだけで批判されることはないんだ。だから、この点に僕たちは厳重に気をつけなければいけないんだよ。ただ僕たちが貧しいからって、もう僕たちが神の国を手に入れていると考えてはいけないんだ。

オスカー 僕たちは、人間が神を愛しているのか、金を愛しているのかを、はっきりと区別しなければならんだと僕は思う。誰か金を儲けることだけに夢中になっていないか？ そしたら、その男は金を愛しているんで、金はその男の神なのさ。じゃあ、他の男は神を愛しているか？ そした

ら、その男は自分の金を分配してしまつて、その結果、貧乏になる。それならば、この男は本当に、彼の隣人たちを愛していることになるんだよ。

パンチョ。しかし、金を喜捨する金持だっている……

フュリオ。そうだ、だがそれはただ、ほんのちょっぴりなのさ。……そうやって、彼らは自分たちの良心を有^もめていただけなんだ。あるいは彼らはもっと与えることがあるかも知れない。しかし、それは僕の知^しっているところでは、壮大な神殿のため、豪華な聖人の彫像が飾られた見事な教会のためのもので、隣人なんて、彼らにとって、どうだっていいものなんだ。隣人なんて悪魔に食われちまえというわけさ。僕にとって、そんなものは愛なんてもんじゃない。あくまでも僕の意見によればだけれど、違うんだ。

私が総まとめをした。——神の御国^{みくに}とはなんであり、なぜイエスが貧者を幸いと言ったか、これでみんなにはきつと明らかになったことだろう。なぜなら、この御国^{みくに}は彼らのものときめられているからね。私には、あたかも他の言葉による他の至福も、もう一度、同じことを繰り返しているように思われる。なんという名で呼ばれようと、それはイエスが語っているのと同じ貧しい人たちなんだ。そして、その約束もまた、同じものなんだね。

苦しむ人は幸^{さいわい}いである。彼らは慰めを受けるであらう。

柔和な人は幸^{さいわい}いである。彼らは地を所有するであらう。

正義に飢え渴く人は幸いである。彼らは飽かされるであらう。

あわれみ深い人は幸いである。彼らはあわれみを受けるであらう。

心の清い人は幸いである。彼らは神を見るであらう。

平和のために働く人は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるであらう。

正義のために迫害される人は幸いである。天の御国は彼らのものである。

最初に私たちは、慰められなければならない悲しんでいる人々について話し合った。

トマス・ペーニアが彼の偉大な単純さで言った。——私はこの祈りをこう理解しています。どう言ったらいいのか、キリストが自分たちの所へやって来て下さった時に、貧乏人たちはほっとしたということで。それまでこの人たちやあ、自分たちを打ち捨てられてると感じていました。金持は豊かでも、彼らは貧乏で、なんの見込みもなかったです。だから、キリストがおいで下さったとき、彼らは慰められるように思いました。彼らが貧しければ貧しいほど、苦しめば苦しむほど、それだけ、彼らは幸福でなければなんですね。なぜかって、彼らは神の御国のために選ばれているのですものな、僕はそう思います。違うでしょうか？ だけど、人が違えば、違うように考えます。そして僕にはそれが、正しいかどうかとも解らねえ。彼らがここで聖書を歪めているなんてこたあ、ありやあしないんだが。違いますか？

彼の息子のフェリベ いいんだ。神の国のために選ばれたと知るとは、貧乏人たちの慰めだろう。しかし僕たちは、キリストが、人間同志が搾取し合うことを欲していなかった、ということを忘れてはいけないんだ。キリストは、人間が富者と貧者に分断されないよう、人間たちを解放するためにこの世に來たんだ。そして彼はまた、僕たち皆が貧しくあらなければならぬ、なんてことは望んでもいない。だから僕たちは、神の国が僕たちに到來するだろうという約束を、喜んで待ち望むことができる。だが、僕たちは、それが実際に存在するようになるまで、満足することはできないんだ。

レベーカー イエスは柔和な人をも祝福しておいでになる。きつと辱しめられても、その心を頑かくなにすることがなかった、貧しい人のことを言っているんだと思うわ。昔、貧しい人たちは今よりも、もっと卑しめられていたことでしょう。とにかく、私にはそう思われるわ。にもかかわらず、彼らは神にとって、何にもまして尊重に値するものだった。私たちが貧しく、他の人たちから辱しめられているからといって、何も悲しむことはないわ。なぜなら、神は心の貧しい人たちを、神の御国と同じ約束の国に導いて下さるんだから。それに反して、傲慢な人たちはこの国に入ることができないんです。若い娘のエスペランサが尋ねた。——謙遜なお金持なんているの？

彼女の姉のマリア。——いいえ、それはただ、彼らが自分の富を人々に分かち与えた場合だけよ。ナターリア 最初のキリスト教徒たちは、あらゆるものを分かち合ったわ。お金も、畑も、家も、ボートもね。

私は言った。——最初のキリスト教徒たちは、他の人々からこう呼ばれる以前は、自分たちを

anawim という名で呼んでいた。彼らは自分たちを、この至福の言う貧者たちだと思っていたからね。彼らのなかには裕福な人は居なかった。なぜなら、彼らはすべてを分かち合っていたからね。だが、また、貧困に苦しむ人も居なかったんだよ。

マルセリーノ イエスはまた、正義に飢え渴いて求めている人々をも祝福している。飢えと不正とは事実上、同じものなんだ。飢えて食物を求めている者は、正義にも飢えているんだ。飽食している人たちではなく、飢えている人々が社会を変革するだろう。そうなれば、彼らはパンにも社会にも満ち足りるだろう。

若いフェリオ ある国で、革命が勝利すれば、貧しい人たちはもう飢えに苦しむ必要がない。そして、今、話題になっている神の国も、彼らのもとに建設されるだろう。だが、飢えや病氣や不正が存在する限り、その限りにおいて、天の国もまだまだ遠いものだということになる。

アレフアンドロ 同じように、あわれみ深い人もここに挙げられているね。僕は、革命家になる人間は、皆、あわれみ深い人だと思っている。なぜならば、彼らは他の人々に同情しているからだ。太勢の貧乏人が、つまり、雇われて、彼らの収入を得ている人々が居るんだけれど、彼らは豊かでもなくて、金持たちと同様の野心を持っている。そして、その中から誰かひとりが本当に金持になると、おそらく即座に無慈悲な人間になってしまうんだ。たった今、レベーカーが僕たちに、福音書の貧しい人々は、愛を実践し合っていた人たちだったということを、明らかにしてくれた。革命による変革に反対する皆、つまりブルジョワ的心情を持つ貧乏人たちは、同情の心なんか持っていないし、だから、

それゆゑに彼らは福音書の言う貧しい人々でもないんだ。

ラウレアーノ 福音書が欲しているのは、完全な共産主義、これなんだ。

保守的なパンチョが腹立たし気に言った。——じゃあ、お前はもしかすると、キリストが共産主義者だったと主張しようとしているのか？

フュリオが答えた。——共産主義者たちは、福音書も説いていることと同じことを説いているよ。つまり、すべての人間は平等でなければならず、兄弟のように生活すべきだということだ。ラウレアーノが言っているのは、福音書の言う共産主義のことなんだ。

するとパンチョはますます腹を立てて。——一体、共産主義がそもそものどんなものを、ラウレアーノは一度だって俺に説明してくれたことがなかったよ。そうじゃないか。

私はパンチョに言った。——あなたは共産主義というものを、新聞に書かれたり、ラジオで言われたりしている通りのもの、つまり、人殺しや強盗の類のように見ているんじゃないか、と私は思うんだけどね。しかし、共産主義者というのは、すべての人間がその仕事によって自分の分担当を果たし、その代わりに自分が必要としているものの多寡によって貰い分を取るといふ、公平な社会を目ざそうとしているんだよ。ラウレアーノは、まったく同じことがすでに福音書でも説かれていて信じているんだ。あなたは共産主義者たちのイデオロギーを拒否してもかまわないんだが、福音書のここに書かれていることは認めているに違いないんだ。この福音書の共産主義に関しては、私たちはキリスト教徒として了承しなければならぬ。

パンチョ もし、俺たちが福音書に従うとしたら、俺たちが共産主義者だコミュニストってことを意味することになるんですか？

私。——すでにある意味においてはね。なぜなら、私たちは完全な社会を求めているし、搾取や資本主義が存在することに反対なんだよ。

レベーカー 神さまが望んでいらっしゃるように、私たちが団結すれば、それが正しいことなのね。共産主義社会というのは平等社会のことなんだわ。「共産主義」というのは、一緒にとか共同してとかを意味する、「共通の」という言葉から出たものなんです。つまり、私たちが、神さまの望まれるように団結すれば、そしてすべてを共有すれば、私たちだって共産主義者コミュニストなんですよね。

ウィリアム すべてのものを共有していた最初のキリスト教徒たちも、そのように生きたんだ。

パンチョ その共産主義は、失敗する……と俺は思うんだけどなあ。

トマース 新聞が報道している共産主義コミュニズムってのは、たしかにちょっと違うもんです。だけど、僕らが皆愛し合わなくちゃいけないっていう、もうひとつの共産主義コミュニズムってのは……

パンチョ もう、いい……

レベーカー それが共同体なのよ。共産主義コミュニズムは共同体と同じものよ。

トマース この共産主義コミュニズムが僕に言うだよ。おまえさん自身のように、おまえさんの隣りの人も愛しなさいってな。

パンチョ だけど、共産主義者コミュニストたちはみんな、他の人間の悪口を言うじゃないか。そんなら、彼ら

だって、お互い同志、愛し合っていないんだ。

エルビス 違うよ。馬鹿だなあ。誰も悪口なんて言ってやしない。今は、計^{プログラム}画のことを言っているんだ。……それはほんとによいものなんだぜ。

フェリベ 福音書はまた、心の清い貧しい人々は幸せだ、と言っている。実際、貧しい人間が皆、心が清らかだというわけではない。金持と同じような心情を持っている人間も多いから。なかでも僕たちが知っている金持と同じようなね。彼らはラジオ放送や、プロパガンダによって、僕たちの心の中にどうしても彼らの心情、まったく打算的な心情を呼び起こしているんだ。

ウィリアム フェリベが言ったことは、まったくその通りだね。もちろん、貧乏な人たちだってその悲惨さから脱出しようとしている。しかし、プロパガンダはうまいことばかり言って、貧しい人たちに間違った観念を与えようとして、彼らが本来、全然必要としていないことを願っているかのように、間違った欲望を吹きこんでいるんだ。愛の国・神の国を建設しようとするば、そんな願いから解放されてつまり、清らかな心を持たなければいけないんだ。

マヌエル・アルヴァラード 僕は、こう言った願いや功名心から、すべての争いや戦争が起こるんだと思う。誰からも何かを奪い取ろうなんて思わないような、貧しい人たちは幸^{さいち}いだと言われる。誰かが他の人からその土地を奪いたいと思ったら、その人には武器が必要になるでしょう。だからここではほとんど全員が、ピストルかライフルを所持しているんだ。もし僕がひとりの労働者を雇って、彼にとうてい食って行けないような賃金しか払わなかったとしたら、僕は平和ではなく、戦争を求め

ていることになる。

オスカル たとえ闘うのであっても、それが、誰かがもはや他人から搾取したりしないようにということのためであれば、僕は平和を求めているんだ。ここに書いてあるね。平和を求めるものは、神の子らである、って。神の子らはつまり、すべての人間が兄弟のようになる共同体を求めているんだ。神の国が神の子らのためにあるってことは、必然なんだ。

彼の兄のフェリオ。——平和を好む人々は、人類を分け隔てている階級差が破棄されることを望んでいるんだ。そのために彼らは闘っているんだが、それは彼らの方が他の人々を圧迫するためではなく、もう誰もが他の人々を圧迫しないようにするためなんだ。

アレファンドロ ここにはこうも書かれている。平和を好む人々は迫害されるであらう。なぜなら、彼らは正義のために闘うからだ。神の国を求めている人が皆、迫害されるであらうということは明らかなことだ。あるいは少なくとも晩てまれることはね……つい最近、僕たちは、僕たちがここで反体制的なことを話しているから、何人かの人たちはこの教会に来るのを怖がっているということについて、話し合ったね。彼らは、何かが洩れ伝わって、何かが起こると恐れているんだ。何か僕は知らないけれど。そしてこの教会に通っている人に、いつか、どこかで出会ったりすると、この人たちは、なんとも言えない特別な様子で、その人を見るそうだけど……

私は言った。——ついさっき、エステリという小さな村、北の方からひとりの少年が私たちのところを尋ねて来た。その少年が話していたんだが、彼の村では、ミサを祝う前には、まず国家警備隊か

ら許可を取らなければならないって言うんだよ。この集会は危険なものだと、軍部が言っていたそう
だ。この場合、軍部はまったく正しいんだね。なぜなら、福音書を語り合うために人間が集まってい
るんだから。最初の anavim と名乗っていたユダヤの共同体のキリスト教徒たちは、ただ自分たち
が貧しいからというだけで、そう名乗っていたわけではなくて、彼らが迫害されていたからでもある
んだ。なぜならば、(福音書に挙げられているように)「ヤハウェの貧者たち」あるいは「心の貧しい
者たち」というのは、つねに迫害されている人々のことなんだ。

トーニョ 昔はミサがラテン語であげられていたから、こんなじゃあなかった。神父は今と同じ内
容の言葉をしゃべっていたんだけど、しかしそれはラテン語で、民衆にその言葉について説明するこ
ともなかった。だから、福音書はそのころは金持にとっても、軍部にとっても、危険ではなかったん
だな。

さて、それから私たちは最後の一節を読んだ。

私のために、人々があなたたちを辱しめ、あるいは迫害し、あなたたちについて数々のざん言を
するとき、あなたたちは幸いである。喜び、確心にみちあふれなさい。なぜなら、あなたたちは
天国において、むくわれるであろうから。先達の預言者たちも、迫害されていたのであるから。

オリヴィア イエスさまはまず、正義のために迫害されている人々のことを話され、それから、

ここでは「私のために」と言っておいになる。こうすることによって、イエスさまは、両者が同じものであることを、私たちに示しておいになるのね。正義のために迫害される人は皆、イエスさまのために迫害されている。ここで言われているのは侮辱と迫害で、死については、きっとイエスさまのために殺されるのは、ただ例外的な場合だというので、言及されていないのだから。——死だって生じることがあるにもかかわらず。侮辱と迫害はそれに対して、より頻繁に生じるからでしょう。この土地でだってもう、何かそれらしきものに、私たちは気がついていて。人々は私たちのことを、強盗や悪人ほどの意味しかもたない共産主義者たちと呼んでいる。——将来、もしかすると、彼らが私たちを虐待することがあるかも知れない。

フュリオ しかし、僕たちは不正について話さなければいけない。たとえ、彼らがそれは共産主義だと言おうともだ。そしたら、人々は、僕らの教会を避けるようになるだろう。そんな人たちは真実の福音から遠ざかり、離れて行くんだ。しかしそれは僕たちが誇ることもあるんだ。なぜなら、僕たちは搾取と悪の側に立っているのではなくて、真実の福音の側に立っているんだから。

ウィリアム イエスは私たちを預言者たちと較べておられる。聖書の預言者たちは、未来を預言した人々と言うよりも、むしろ現在の悪を訴えた人々だったんだ。彼らは宮殿におけるお祭り騒ぎや、秤やお金の誤魔かしや、貧しい人々の労働を犠牲にして安く買い叩くことや、寡婦や孤児に対する詐欺行為や僧侶たちの非道さや、殺人や、彼らが売春と呼んでいた王の政治や、外国の帝国主義への依存に反対して、抗議したんだ。同時に彼らは未来をも、迫害されている人々に到来する解放をも預言

した。キリストがここで言っているのは、私たちの運命も、預言者たちのそれに似たものでなければならぬということなんだ。

他の男（青少年グループのひとり）が附け加えた。——キリストが言ったこと、つまり「彼らはあなた方について数々のざん言をする」ということはもう、この土地でだって、少しは始まっています。人々が僕たちの所に送りこんだスパイが保安警察に報告しているし、ひとりのペルー人が反乱にそなえて、民衆に覚悟させているし、僕たちのミサだって、実際には革命的な集会だったことになっている。その上、すべてのボートの持主たちの名前を彼らは記録しているどころか、それぞれのボートに乗っている人数だってそうなんです。そして、こんなにたくさんさんの若い人たちがミサに行くなんて、とくに疑がわしいって言うんです。……これらの預言者たちは偉い人たちで、そんな人たちと較べられるのは、僕たちにとって大変名譽なことだと、僕は思います。僕たちはそれがとても嬉しいし、僕たちが天国で受けるこの報いも嬉しいんです。その報いというのは、僕の考えによれば、僕たちが前に話したことがある平等な神の国のことを言っているんでしょう。

マルセリーノ まさにこれこそが「貧しい者たちのための喜ばしい知らせ」、神の国がその人たちのためにしつらえられているという知らせなんだね。